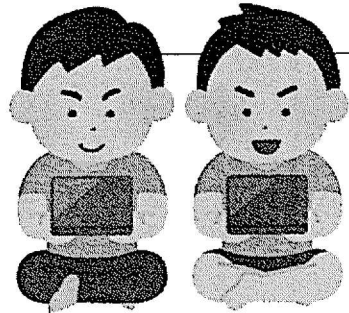


子ども食堂での活動を通して

5201009 安食りんか

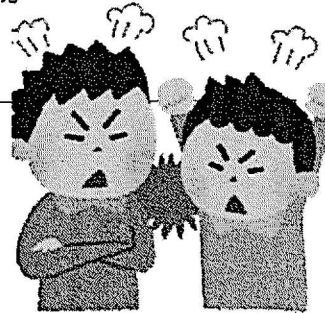


エピソード1

活動中、ずっとゲームに夢中な子どもに対して、一度一緒に遊ぶことを誘ったが、断られてしまった。その後はその子どもと遊ぶことを諦めてしまった。

改善策

せっかくの交流の場なので、その子どもが興味をそそるような提案をして一緒に遊ぶようにできたらよかった。

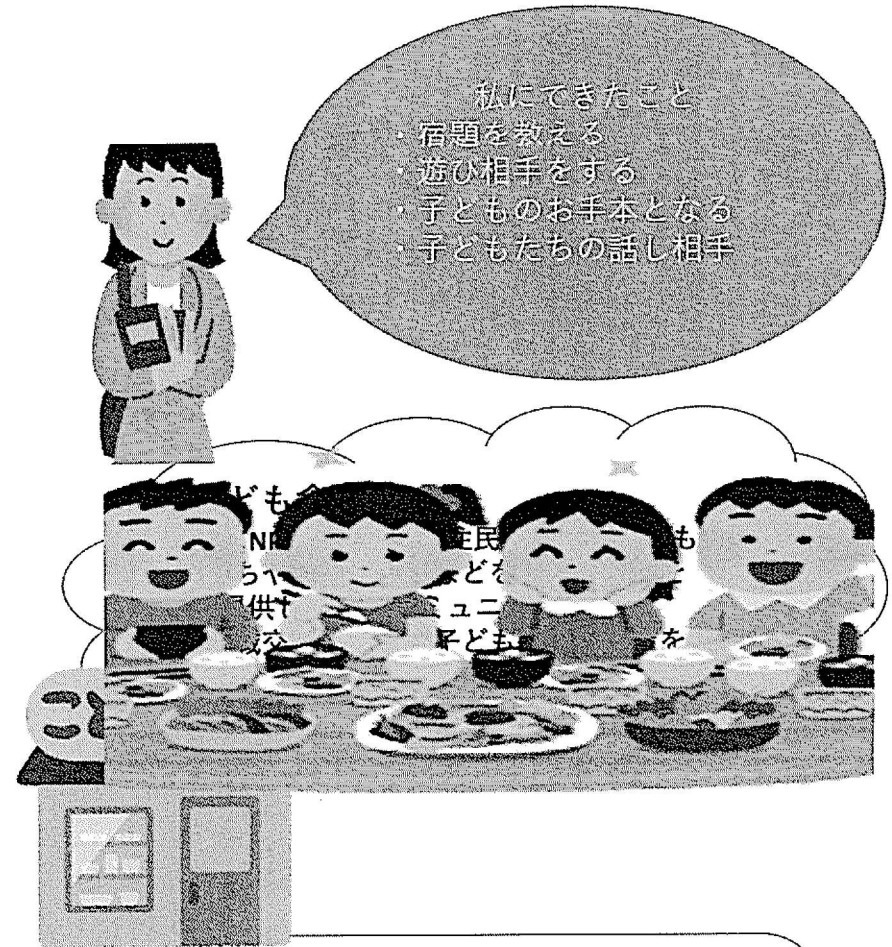


エピソード2

みんなで鬼ごっこをしている時にルールを守らない子どもや子ども同での喧嘩が起こってしまった。しかし、私はどう止めたらいいのか分からずちゃんと仲裁に入れなかった。

改善策

まずはきちんと子どもたちにルールを理解してもらってみんなが楽しく遊べるような環境づくりを行うべきであった。また、喧嘩が起きた際は、お互いの言い分をきちんと聞き、仲直りの手伝いができればよかった。



まとめ

子ども食堂は子どもが安心して楽しめる空間である憩いの場を目指すべきである。子ども食堂がそうであり続けられるよう、地域や私たちはサポートをしていかななくてはならない。
また、私自身たくさんの実習を重ね、経験や対応能力を得る必要がある。

子ども食堂の体験を通して

～子どもが抱える問題とは～



5201114 坂東遥

↓子ども食堂って？

子どもやその親、および地域の人々に対し、無料または安価で栄養のある食事や温かな団らんを提供するための日本の社会活動である。2010年代頃よりテレビなどマスメディアで多く報じられたことで動きが活発化し、孤食の解決、子どもと大人たちの繋がりや地域のコミュニティの連携の有効な手段として、日本各地で同様の運動が急増している。こども食堂に来る子どもたちの中には、食事のマナーを知らなかったり、学習面でサポートが必要だったりする子どもたちもいる。そういった子どもたちに支援を行ったりもする。また、こども食堂を開くことにより、子どもたちに放課後の居場所ができ、子どもたちの安全・安心につながったり、地域住民の交流が増えることで地域が活性化されたりすると考えられる。

↓印象に残ったエピソード

- ・宿題をすることを嫌がる子供が多かったこと
- ・明らかに靴下や服のサイズが合っていない子がいたこと
- ・言葉遣いが悪く、反抗的な子どもが多かったこと
- ・家庭の事情を抱えた子どもとそうではない子どもが混ざり合っていたこと。
- ・両親が仕事に行っていて夕飯は一人で食べる人が多いと言っていた子どもがいたこと

その背景とは？

子どもの貧困問題



日本では、7人に1人、子どもが相対的貧困家庭で育っているとされている。相対的貧困とは、低所得者の割合や経済格差を示す指標である。衣食住などの悩み以外にも、希望の学校や大学に進学できない、学びたいことを学ぶことができないなど、家庭内で何らかの問題を抱えたケースが多い。外見からは、わかりにくく、貧困を認知するのが難しいため、支援の手を差し伸べにくい。

↓子どもが抱える問題とは？

・学ぶことをあきらめてしまう

両親が忙しいため、育児まで手が回らない。両親は、宿題を見る時間がない。子どもは、わからない問題を聞くことができない。

結果、勉強がわからないままに、学校の授業についていくことができず、勉強嫌いになる。また、貧困のため教育格差が生まれ教育を受けられない子どもがいる実態もある。

・居場所がない

家庭環境が複雑で家庭で安心して過ごせない、学校に馴染めない、不登校・少年非行・犯罪など

・孤食問題

孤食とは、家族が不在の食卓で、ひとりで食事することである。

孤食は、好き嫌いを増やす原因になる。好き嫌いを注意してくれる人がいないので、孤食が続くと、好きなものばかり食べる傾向になり、栄養が偏りがちに。また、コミュニケーションが不足する。

改善案～私たちにできること～

子ども食堂に参加する！

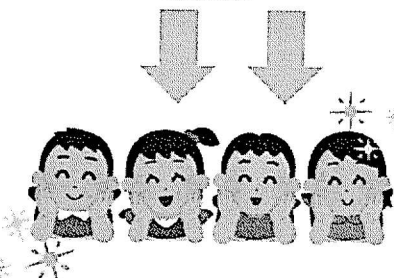
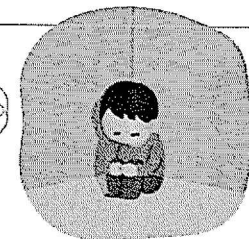
・学習面の支援をする

学力向上に向けて、宿題をしているのを見守り、わからない問題は一緒に取り組む、勉強についてのアドバイスをする。

・子どもたちの相談相手、話し相手になる

子どもたちと一緒に過ごすことで子どもに安心感を与えられる。日常的なコミュニケーションを通して子どもの心のよりどころになる

・マナーやしてはいけないことは、指導する
食事の支援・生活能力を向上させる



子どもたちが来やすく安心して過ごせる場所に！